

多重債務者の特徴からみる
大学生のクレジットカード利用実態

指導教員名：水越康介准教授

氏名：坂本雄亮

頁数：23 頁

目次

第1章	はじめに.....	3
第2章	クレジットカードと大学生の消費の関係.....	4
2-1	クレジットカードがもたらす消費変化.....	4
2-2	大学生がクレジットカードを利用する危険性.....	6
2-3	大学生の消費価値観.....	8
2-3-1	社交消費.....	8
2-3-2	自分のためにお金を使える大学生.....	8
2-4	第2章のまとめ.....	9
第3章	多重債務者の特徴.....	9
3-1	心理学と行動経済学からみた多重債務者の特徴.....	9
3-2	時間選好率からみた多重債務者の特徴.....	12
第4章	大学生へのインタビュー調査.....	12
4-1	インタビュー方法と内容.....	12
4-2	インタビュー結果.....	13
4-2-1	クレジットカードを作った経緯、そのときの心境.....	13
4-2-2	現在のクレジットカードの利用状況、過去との比較.....	15
4-2-3	お金遣いや消費意識、資産管理について.....	17
4-2-4	失敗経験について.....	19
第6章	考察・まとめ.....	21
参考文献	22
参考資料	22

第1章 はじめに

決済に現金を使用しないキャッシュレス決済の普及が加速している。キャッシュレス決済と聞き、一番初めに思い浮かべるのはクレジットカード決済であろう。クレジットカード決済は日本で最も普及しているキャッシュレス決済である。株式会社ジェーシービー（JCB）の「クレジットカードに関する総合調査」（2016年度版）によると、日本人のクレジットカードの保有率は84%であり、平均保有枚数は3.2枚である。また生活費に占めるクレジットカードの利用割合は34%で、スーパーマーケットや携帯電話料金などの業種の決済が多く、生活に根付いた決済方法ということができよう。また最近ではインターネット通販の市場拡大に加え、税金や医療費などのカード払いの対象が拡大したことや、アップルペイなどのスマホ決済が登場し、クレジットカード払いの対象がさらに広がっている。日本クレジット協会によると、2016年クレジットカードのショッピング支払額が前年比8.2%の53兆9265億円となり、初めて50兆円を超えた（『日経MJ』、2017年4月17日、11頁）。

このように、キャッシュレス決済、特にクレジットカード決済は私たちの生活の一部として機能している。それは私たち大学生にとっても例外ではない。筆者自身や周囲の多くの友人がクレジットカードを利用している。街での買い物やネットショッピング、公共料金の支払いなど、大学生でも多くの場面でクレジットカードが利用されている。マイナビが実施した大学生を対象にした調査によると、「自分のクレジットカードは持っているか」という問いに対して、「はい」54%（217人）、「いいえ」46%（185人）と、半数以上の大学生がクレジットカードを所持している。クレジットカードを持っている人は、「インターネットショッピングで便利だから」、「ポイントを貯めるのに便利だと思ったから」などのメリットを感じ、利用しているようだ。

しかし、クレジットカード決済は利用者の信用をもとに、クレジットカード会社が購入代金を肩代わりし、あとで利用者に代金を請求するものである。つまり、消費者はクレジットカード会社から借金をしているのである。毎月勤務先から一定の給料が振り込まれる社会人に比べ、大学生は収入が低く、安定していない。そのような大学生がクレジットカードを利用するには、少なからず危険が含まれていると筆者は自身の経験から考えている。筆者はクレジットカードの便利さから、クレジットカード中心の生活に変化してしまい、毎月「借りては返す」の自転車操業の状態になっていた時期があった。クレジットカード利用によるこうした経験は、筆者だけではなく、周囲の大学生からも度々耳にすることがあった。

そこで本論文では、クレジットカードを利用する大学生にインタビュー調査を実施し、その利用実態を明らかにし、利用者本人の心理がクレジットカードとの付き合い方に影響を与えるのか、大学生がクレジットカードを利用するにはどのような危険が潜んでいる

のかを分析していく。

第2章 クレジットカードと大学生の消費の関係

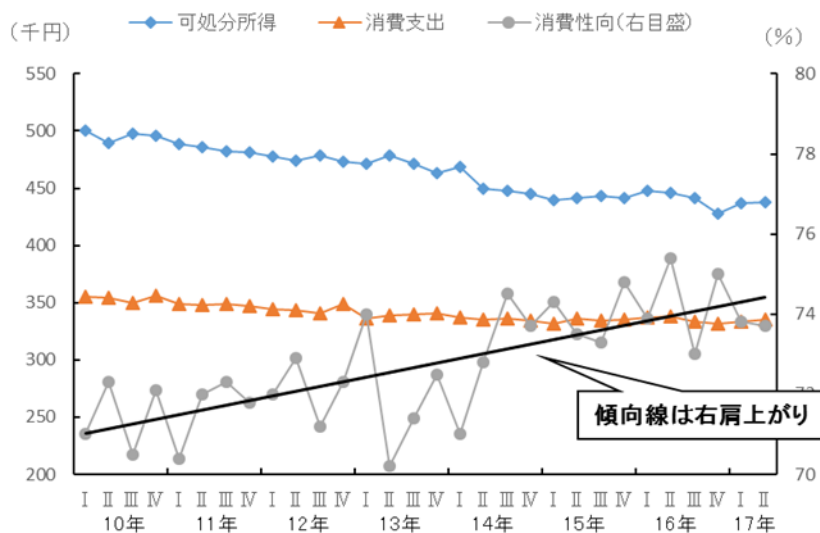
この章では、クレジットカードが大学生の消費にどのような変化をもたらすのかを考察していく。そのために、決済手段のひとつであるクレジットカードがそれまでの現金などの決済手段と違い、個人の消費にどのような変化をもたらしたのかを理解する。そして、大学生がクレジットカードを利用する危険性、大学生の消費価値観を踏まえながら、クレジットカードと大学生の消費にどのような関係性があるのかを考えていく。

2-1 クレジットカードがもたらす消費変化

経済産業省が公表している「家計の消費動向とクレジットカード利用」のデータを用い、消費者がクレジットカードを利用することで変化する消費を分析していく。はじめに、家計の消費動向を見ると、平成10年頃からみた消費性向は上昇傾向にあることがわかる（図1）。消費性向は、所得に対し、どれだけを消費にあてるかを示す割合であるが、可処分所得をみると年々減少していることがわかる。また可処分所得の減少に加えて、消費支出も年々減少しているが、可処分所得と比べるとその減少は小さい。これが消費性向が上昇している要因である。可処分所得が減少する一方、消費性向は上昇しているため、家計のやりくりが年々難しくなっていると推察されている。

<図1>

消費性向の推移



(※)「家計の消費動向とクレジットカード利用」を参考に筆者作成。

次にクレジットカード利用についてデータをみていく。厚生労働省の「特定サービス産

業動態統計調査（クレジットカード業）」の販売信用業務取扱高の推移をよると、平成 10 年～17 年のデータでは、約 0.8 兆円上昇している。この背景として、クレジットカードの持つ手軽さ、利便性、特典サービス（ポイント、マイレージなど）の充実や新たな利用者の増加などが考えられる。またクレジットカード利用は家計における商品・サービス購入時の決済方法の 1 つである。これを考えると、クレジットカード利用の増加は、平成 11 年頃からの消費性向の上昇に何らかの関係があるのだろうか。

経済産業省はクレジットカードなどによる一括払購入金額と消費支出との関係について、可処分所得が減少に転じた平成 11 年で前後に分けて回帰分析を行った。分析の結果は、平成 10 年までは一括払購入借入金の係数に有意性がみられないが、平成 11 年以降では一括払購入借入金は消費支出と正の相関がみられた。一括払購入金額は平成 11 年以降も増加しているため、借入金はいずれ返済しなければならないものではあるが、単月で見るとクレジットカード決済によって家計で自由になる手持ち資金が膨らみ、消費支出に何らかの影響を与えていると考えられるという分析をしている。

また、株式会社ジェーシービー（JCB）の消費者を対象とした「クレジットカードに関する総合調査」（平成 16 年度版）では、クレジットカードのメリットとして「生活を便利にしてくれる（「Yes」と「やや Yes」の合計 72.8%）」「手軽さが魅力である（同 67.5%）」と感じている人が多く、平成 13 年度調査よりその割合は増加していた。

消費支出の回帰分析や JCB の調査結果から、支払いを現金に代わって一部カード決済にすることにより、本人があまり自覚しないまま従来よりも支出している可能性は否定できない。つまり、毎月貯蓄に回していたもののうちの一部が消費に向けられていると考えられる。

次に、特定サービス産業動態統計調査（クレジットカード業）をみると、販売信用業務取扱高総額の内訳を平成 10 年と平成 16 年で比較すると、各業種の取扱高総額に占める割合は「その他」が約 50%増と大きく拡大している。これは従来の百貨店や一般小売店といった利用に止まらず、航空・鉄道運賃、携帯電話料金、さらに今まで利用できなかった公共料金（電気、ガス）や、新聞購読料、病院、コンビニなどでも利用できるようになったためであり、クレジットカード払いの利便性が高まっていると考えられる。

続いて、インターネット利用とそのクレジットカード払いについての経済産業省の分析をみる。一般世帯のパソコン普及率は平成 17 年 3 月時点で、64.6%（「消費動向調査」（内閣府））に達しており、インターネットを利用した支出額は堅実な増加をみせている。インターネットを通じた注文のうちクレジットカード決済の割合をみるとおおむね 50%を超えており、またインターネットを利用して注文経験のある世帯の割合も増加していることから、インターネットを利用したクレジットカード決済はこれからも増加するものと思われる。

ここまでの分析をまとめると、実質家計消費支出は、平成 16 年に 7 年ぶりの増加、引き続き平成 17 年上半期も増加となっている。また、平成 11 年以降の家計支出のうちクレジ

ットカード利用による支出は、近年の家庭におけるインターネット普及がその利用を更に促進させている。このようにクレジットカードによる購入は、単に現金払いをカード決済に代替しているだけでなく、購入したい時に商品を手にするができる手元流動性を高める効果もあり、その結果消費行動に変化があらわれていると考えられる。今後、利用業種の拡大などによって、その利便性や特典サービスなどが更に高まり、加えて、カード情報流出防止などの個人情報の保護や、IC カードなどによる不正使用防止策など、クレジットカードの一層のセキュリティー強化が進むことになれば、利用額はさらに増加することが予想され、家計支出にいかなる変化をもたらすのか注視することが必要であると経済産業省は分析している。

このように、クレジットカードは現金が手元にあったとしても、その利用場面の多さや利便性から、流動性を高める効果があり、結果的に家計全体の消費を増加させることが理解できる。また、この経済産業省の分析は平成 17 年時点でのデータをもとにした分析であり、それから 10 年以上が経過している。現在では約 4 割の利用者がインターネットでのオンラインショッピングをしており、インターネットが最もクレジットカードを利用されている業種になった（JCB）。セキュリティー面でも大きな発達を遂げた。セキュリティー面では、磁気ストライプ取引から、スキミング被害を防ぐ IC 取引に変わりつつあり、消費者の安全が保たれている（日本クレジットカード協会）。これらの発達により、第一章でも述べたが、現在のショッピング支払高は 50 兆円を超えるまで市場は成長した。今やクレジットカードはより社会に浸透し、人々の生活に不可欠なものとなり、上述のような消費変化をもたらす存在になっていると考えられる。

2-2 大学生がクレジットカードを利用する危険性

一方で、クレジットカードの利用には使い方次第で危険が伴うこともある。クレジットカードが原因で陥ってしまう大きな問題は債務問題である。現金がない、現金を手元に残しておけばいい、来月支払いで済ませれば良い、などと安易な考えからクレジットカードを多用し、債務状態に陥る。また、その債務が支払えないため他の会社のクレジットカードを発行し、お金を借り、債務の返済にあてるという、借金が借金を生み出すいわゆる多重債務に陥ることもある。安藤（2002）は、決済手段としてクレジットカードが広く行き渡っているアメリカの大学生の事例を参照し、社会問題にまで発展した原因を分析している。実際に起こっている大学生のクレジットカード利用に関する問題を参考に、大学生がクレジットカードを利用する危険性についてみていく。

20 歳台の多重債務の原因について、安藤（2002）は以下のように分析している。

一時的な出費や生活費の枯渇から消費者金融等から借金をし、借金の利息を返済するために別の業者から借金することで多重債務に陥る一般的な原因である。しかし 20 歳台の若者の場合は、それとは少し事情が異なる。ローンやクレジットについての基本的な知識不足から、極めて安易に物を購入したり、あるいは無防備に借金を重ねたりすることにより、

それが半ば生活習慣化し、気がついた時には、すでに借金は個人の返済能力を超えて多重債務者になっていたというケースが多い。彼らはそもそもローンやクレジットが「借金」であるという意識が希薄で、「他人のお金」をあたかも「自分のお金」であるかのように錯覚している者が多い。若者の心をうまくつかんだ広告・宣伝が若者たちに“Enjoy now, pay later”（今を楽しみ、払いは後で）と呼びかけ、肥大化した欲望の消費へと誘っているのである。「購入が先、支払いは後」という消費意識や態度が大学生に浸透していることは想像に難くない（安藤、2002、p.56）。

このように、大学生は収入が低いことに加えて、ローンやクレジットに関する知識不足、そして知識不足がもたらす「借金」という感覚の薄さ、“今”を楽しもうとする消費意識など他の年代とは異なる要因が絡んでくるのである。

さらに、大学生をビジネスチャンスと捉え、近づいてくるクレジットカード会社の存在も大きいと安藤（2002）は述べている。大学生という大学生はフルタイムの職業はもっていないとはいっても、自由に使えるお金はかなりもっている。そして少なくとも大学入学の時点では借金は抱えていない。したがってクレジットカード会社にとっては、大学生は優良かつ有望な借り手であるわけである（安藤、2002、pp.60-61）。マスターカードの消費者担当副社長は、大学生をターゲットとしたクレジットカードの勧誘がビジネスとして有望であることを認めながらも、それだけではなく、大学生がクレジットカードをもつことは、金銭管理を学ぶ手段として有効であるとして、その教育的機能を強調している。しかしクレジットカードをもつことが金銭教育に効果的かどうかは、はなはだ疑問であると安藤（2002）はいう（p.61）。

また安藤（2002）は、この問題は日本も例外ではないという。現金信仰の強かった日本においても、近年のクレジットカードの普及は著しいものがあり、それに伴ってクレジットカード会社の競争も激化し、大学生を対象にしたカードの宣伝攻勢も激しさを増してきている。そして多くの大学生は、クレジットカードの仕組みや正しい使い方に関してほとんど知識をもたないまま、カードを手に入れていると述べている（安藤、2002、p.64）。

このように、大学生はクレジットカード、または借金についての基礎知識をほとんど学ばないまま、クレジットカードを発行してしまい、安易に商品を購入してしまう傾向がある。そしてその利用に対しては「他人のお金」を借りているという意識は低く、支払いは後でいいという感覚の大学生が多いと考えられる。また借金もなく比較的自由にお金が使える大学生をビジネスチャンスと捉え、大学生向けにクレジットカードの宣伝や勧誘の動きを強めるクレジットカード会社の存在も、安易なクレジットカードの発行・利用に至ってしまう一因として考えられる。

2-3 大学生の消費価値観

クレジットカードがもたらした消費変化と大学生がクレジットカードを利用する危険性をみてきたが、その大学生は日頃どのような消費をしているのだろうか。この章では、大学生の消費価値観や消費行動の特徴を分析していく。

2-3-1 社交消費

近年の若者が行う消費の大きな特徴は、「社交消費」といわれている（原田、2012、p.12）。近年の若者は、消費に周囲からの承認の意識が付きまとい、周囲からどう見られているか、空気を読めているか、など周囲の人間との関係性を保つための消費を行う。このような消費をする背景には、思春期のころから携帯電話を持ち、幅広く継続性のある関係性が生まれたことがあるという（原田、2012、p.12）。また、若者の「消費の総“交際費”化」が進んでいるという分析もある。これは、若者の消費項目や金額の傾向として、多くの消費が「友人や家族など周りの人とのコミュニケーション」を意識した“交際費としての側面”を持っているからだという（電通総研 好きなものまるわかり調査）。たとえば、近年のハロウィンイベントの若者の盛り上がりを見るとわかるように、友達や不特定多数の人とのコミュニケーションのために消費をする文化は次第に強くなってきているように思う。若者のほとんどがスマートフォンを所持し、若者を中心に Twitter や Instagram が流行するなか、「いいね」を欲することや「インスタ映え」という言葉は、他人とのコミュニケーションが若者の消費に影響を与えているということをよく表しているだろう。

2-3-2 自分のためにお金を使える大学生

「若者の価値観と消費行動に関する調査」（株式会社第一生命経済研究所）では、全国の20～49歳の男女、計12,466名にアンケート調査を実施し、20-24歳（学生）、20-24歳（学生以外）、25-29歳、30-34歳、35-39歳、40-44歳、45-49歳の年代に分けて分析を行っている。「あなたの暮らし向きは、好きなことをしたり、欲しいモノを買う経済的ゆとりがありますか」という問いに対し、20代前半の学生は男女両方とも、他の年代に比べゆとりを感じている割合が高かった（男性:48.9%、女性:60.6%）。同じ年代でも、20-24歳（学生以外）は男性:41.9%、女性:36.7%と、20-24歳（大学生）と比較すると低い水準にある。大学生の1ヶ月の平均収入は、52,435円であり、そのなかで自由に使える金額は、36,514円である（電通総研）。月収の約6割を自由に使うことができるのである。大学生という身分が、他の年代に比べ、自由にお金を使うことができる環境にあるといえるだろう。

自由に使えるお金の中での消費項目での、三大消費は、「外食費（飲み会含む）」9,266円、「ファッション費（洋服、装飾品など）」6,890円、「エンタメ費（映画やイベント、アニメ・漫画など）」5,981円、となっている（電通総研 好きなものまるわかり調査）。ここからも外食など周囲の人間との消費が最も多くなっていることがわかる。

「社交消費」を最も重要視する若者であるが、自分のための消費にも積極的であること

がわかっている。現代の若者は好きなこと・趣味を1人平均約11個持っているという（電通総研）。その多くの好きなこと・趣味を「低コストの割り切り（インターネット、アニメなど無料、安価でできるもの）」と「高額消費（価値があると判断すればお金をかけるもの）」に使い分け、楽しんでいるようだ。さらに、自分へのプチご褒美は大学生の約9割が行っており、その上限金額は27,087円と高い水準にある。また上述の三大消費のひとつであるアニメや漫画などの「エンタメ費」も、価値のある趣味をお金をかけて楽しみたいという最近の若者の傾向と一致しているといえる。

このように、若者の消費の大きな特徴は、現実とインターネットの幅広い人間関係を円滑にするための「社交消費」である。また、これまでの消費と異なり、友人や家族など周囲の人とのコミュニケーションのために、様々な消費が交際費化している。大学生の収入の中で、自由に使えるお金の割合は、他の年代よりも高く、経済的ゆとりがあると感じている大学生も多い。そのなかで大学生は、周囲との関係性を保つための「社交消費」と、「自分への消費」を積極的にしていることがわかった。

2-4 第2章のまとめ

クレジットカードは、その利用場面の多さや利便性から、流動性を高める効果があり、消費支出を増加させる。クレジットカード会社の戦略もあり、今や大学生であれば簡単にクレジットカードを作れる時代になっているが、大学生はクレジットカードに対する知識不足、収入の低さなど危険な要因が多い。大学生は他の年代に比べて自分の好きなことに使える自由なお金が多くあり、そのお金は他人とのコミュニケーションのための社交消費や好きな趣味や娯楽に費やされる。比較的自由的な消費ができ独自の価値観を持つ現代の大学生がクレジットカードを利用することは、さらに消費を促すような効果がある可能性も考えられる。

第3章 多重債務者の特徴

前章でみたように、クレジットカードは消費を促し、なおかつ大学生は好きなことにお金をかけられる環境にある。しかし、このような環境ですべての大学生が同じ程度に消費をするわけではないだろう。そこには、個人の性格や消費意識、金銭感覚などが関係していると考えられるからだ。そこでここからは、多重債務者の特徴をみていく。多重債務者は皆、一般的にその発生過程や思考行動パターンが似ているといわれている。多重債務者の心理的特徴は主に心理学から、消費行動については行動経済学の時間選好率の概念から理解していく。

3-1 心理学と行動経済学からみた多重債務者の特徴

嶋田（2010）によると、心理学からみる多重債務者の類似する傾向は、他者の行動や決

断に流されやすく自己決断力が低い、思考的柔軟性や物事への対応力は低く、他罰傾向が強く責任転嫁しやすい、熟慮性が低く楽観的、金銭面だけでなくセルフコントロールやリスクコントロール、ストレスコントロールなど全体的にコントロール能力、マネジメント能力が低い、コーピングスキルが未熟でありコーピング能力自体が低い、発展的物事に対するあきらめは早く努力が苦手であるが、安易な継続的物事への執着は強い、対人コミュニケーションが苦手、プライドや自我意識が強く現状の自分とのギャップが大きい、欲求充足に対する衝動性が強く我慢は苦手、独自の価値観を持つなどがあげられるという (p.51)。

一方、心の動きや思考行動が経済的行動にどのように影響するのかという観点をもつ行動経済学では、限定合理性のテーマとして多重債務や自己破産行動に関する研究が進んでいる。嶋田 (2010) は、多重債務者の行動特性の特徴として、現状維持バイアスが大きく関係しているという (p.51)。現状維持バイアスとは、意思決定を行う際、できるだけ後悔せず、すむ保守的な選択を選ぶ可能性の表れであり、今までと同じ行動を維持して後悔するより、それをやめて違う行動をとって後悔するほうが心理的負担が強いため、現状を維持したままにしておこうとする傾向のことをいう。心理学的には、バイアスは偏見や先入観、思い込みと捉えられ、誰でもが持っているものであり、それ故それが強いかわるいかわる問題とされている。嶋田 (2010) は、過去の行動経済学の研究をまとめ、現状維持バイアスが強い個人の特徴を以下のように記している。

- ①現状維持バイアスの弱い個人より強い個人のほうがセルフコントロール的機能より即自的現在消費への満足感に価値を置いているため、借入行動を行う。
- ② 現状維持バイアスの強い個人は長期的、長期間の目的で借入を行うより、すぐ近くのことでお金を借りる傾向がある。
- ③ 現状維持バイアスの強い個人は将来への消費への価値が低いため、クレジットカード負債が増加する。

これらを踏まえた上で、嶋田 (2010) は消費者金融利用者、中でも多重債務に陥る可能性の高い者、もしくはすでに多重債務に陥っている者について、その思考的、行動的特徴を心理学と行動経済学の観点から分析をした。嶋田 (2010) は日本貸金業協会のサイトで運営されている消費行動診断 (図 2) を用い、20代~60代の男女 42,220名を対象に診断を実施した。

図2 消費行動診断の質問項目と尺度

自己コントロール		消費意識	
Q1	じっくり落ち着いて考えるのは性に合わない	Q16	外出するときはブランド物を身につけて出かける
Q2	なんかかなるさとなげやりな気持ちになることが多い	Q17	人が持ってない珍しい物や高価な物を持ちたい
Q3	面倒なことは苦手だ	Q18	無駄な買物をする人が多い
Q4	お金のかかる遊びやギャンブルはやめられない	Q19	話題の新製品はついつい買ってしまう
Q5	何事に関しても楽観的である	Q20	お金はあればあるほど使いたくなる
生活意識		買物意識	
Q6	生活にかかっているお金について本気で考えたことがない	Q21	買物が出来なくなったりするとイライラする
Q7	日常生活では優先順位などをあまりつけたことがない	Q22	どんどん高い物が買いたくなる
Q8	お金がなければ借りればよい	Q23	買いたいものを我慢するなんて、とてもできない
Q9	お金には無頓着である	Q24	ストレス発散はショッピングにかぎる
Q10	お金の面でだらしない」とよく言われる	Q25	後先のことを考えずにお金を使ったり買物をしてしまう
金銭感覚		危機感知	
Q11	節約や我慢などは性に合わない	Q26	お金に困ると借金をしてしまう
Q12	先の心配よりも今を楽しみたい	Q27	今は「借りては返す」の繰り返しだ
Q13	お金は趣味や遊びに使いたい	Q28	カードでの支払いはリボルビングにすることが多い
Q14	金銭管理なんて金持ちのやることだ	Q29	今、借金をかかえて悩んでいる
Q15	収支のバランスなど考えると何もできない	Q30	カードのキャッシングは便利なのでよく利用する

※日本貸金業協会をもとに筆者作成。

嶋田（2010）の調査から消費者金融利用者、多重債務者の消費行動における心理、行動特性として、以下のような心理学、行動経済学からみた特徴が以下のように得られた。

1. 消費行動における心理

- ・生活やセルフコントロールなど、総合的なコントロール能力や管理力が低い。
（自己コントロール：低）
- ・生活への意識や金銭的な危機意識が低い、消費意欲は高い。
（生活意識：低、危機管理：低、消費意欲：高）
- ・目的的な消費行動より衝動的消費行動、無目的な消費行動をとりやすく計画性や熟慮性に欠ける。その反面楽観的である。（自己コントロール：低）

2. 消費行動における現状維持バイアス

嶋田（2010）は現状維持バイアスが強い個人について以下のように述べている。

自転車操業的な借入と返済の繰返しを非合理であるとする認識はあるようだが、そこから抜け出そうとする意欲や対処能力、相談機関や相談相手を探すなどの外部資源の利用への意欲は低く、暗中模索に陥ったまま現状を維持しようとする。彼らにとって現状維持と考えている状況は、多重債務という点からすれば改善方向になく、むしろ現状維持にこだわるがゆえに状況を悪化させている。自分の状況を改善するため相談に行ったり、他の方法を取ろうと模索したりするという新しい方法を取るより、利用できる消費者金融やカードローンを利用するという方法を取り続けていることから、現状維持バイアスが強いと仮定できる。計画性、熟慮性が低いため、将来予測力も低く、その行動は現状を維持することが目的となる。たとえ計画性があったとしても、感情や欲求に流されやすい優柔不断な

性格であれば、自分の都合のよいように計画を変更させ、将来の価値よりも即自的な現在消費を優先させてしまう可能性は高くなる。即自的現在消費への満足に価値を置き、そのためには現状を維持することが必要と捉えているため、「借りては返す」を繰り返しながら、消費や借金を続ける傾向が高く、負債を増加させやすい。負債増加要因としては、「お金がなければ借りればいい」という質問への回答率から、簡単に借入が行える機会があり、それを繰り返すことができるという意識があることがわかる。時間選好率から捉えれば、近い将来のほうが大きく割引かれやすいため借金に依存する傾向を持ち、クレジットカードやリボリング払いなど、支払いが時間的に遅れるものを好む傾向が強いと推測できる（嶋田、2010、p.57）。

3-2 時間選好率からみた多重債務者の特徴

クレジットカードと時間選好率の関係について、晝間（2001）が実施した調査では、債務問題相談者の極めて高い時間選好率が観察された。時間選好率とは、将来に比べ現在をどの程度重視するかを示す経済主体の効用パラメーターであり、それが高ければ高いほど、将来に比べて現在を重視する傾向の強いことを意味している。時間選好率は、異時点間における選択問題において決定的に重要なパラメーターのひとつである（晝間、2001、p.35）。つまり、支払いが現在ではなく未来におこなわれるクレジットカード払いは異時点間における選択問題であり、クレジットカードの利用の際には個人の時間選好率が大いに影響するということである。高い時間選考率を持つ消費者は現在の楽しみを先に延ばすことが難しく、即時的な満足を重視する傾向が高いことを意味している。現在重視（あるいは現在偏重）主義ともいえる。こうした高い時間選好率を持つ消費者は、クレジットカードやキャッシングカードが利用可能な場合には比較的高い金利を払ってでも、消費を先延ばしせず、今すぐ消費したほうが高い効用が得られるタイプであるということができる（晝間、2001、p47）。現代のようにクレジットカードやキャッシングカードが手軽に利用できる機会が広がることは、即時的な満足を容易に得られることを意味するため、さらなる消費を促す可能性が予測される。また、時間選好率は金額が大きくなるにつれて低下するため、比較的小額なものについての現在消費への週剩傾向（すなわち、クレジットカードやキャッシングカードの利用志向）は一層強まることが予想される（晝間、2001、p.48）。

第4章 大学生へのインタビュー調査

4-1 インタビュー方法と内容

各大学生のクレジットカードに対する意識、利用状況を調査するため、インタビュー調査を実施した。本インタビューは2017年12月19日～2018年1月11日にかけて都内の大学生5人を対象に実施された。インタビューはそれぞれ個別に、所要時間は30分～45

分をかけて行った。事前に、「クレジットカードの利用で、支払料金延滞などの失敗経験をしたことがあるか」を尋ね、インタビュー対象者 5 人を以下のような 2 つのタイプに分類し、インタビュー調査を実施した。

I：クレジットカード利用で失敗経験がある大学生。(A さん、B さん、C さん)

II：クレジットカード利用で失敗経験がない大学生。(Y さん、Z さん)

インタビュー対象者のプロフィールは図 3 のようになっている。

また、両タイプで共通した質問は以下の通りである。

- ・クレジットカードを作った経緯、そのときの心境
- ・現在のクレジットカード利用状況、過去との比較
- ・お金遣いや消費意識、資産管理について
- ・失敗経験について (Y さんを除く)

設定した 2 つのタイプと共通した質問によって、それぞれのタイプで心理的特徴や消費行動に一致がみられるのか、先行研究の多重債務者との特徴の一致はみられるのかを検証した。また、上記の質問以外にもインタビュー対象者の心理的特徴を理解するために適宜質問の追加・変更を行った。タイプ I の大学生については失敗談の経験から、その時の心理状態やその後のクレジットカードの使い方に変化はあったのか検証するために、適宜質問を追加・変更するようにした。

<図 3>インタビュー対象者のプロフィール

タイプ	名前	性別	年次	クレジットカード所持枚数	趣味・お金をかけるもの
I	A	女	4	3	ファッション
I	B	男	3	2	海外旅行
I	C	女	3	2	ギター
II	Y	男	4	1	衝動買い
II	Z	男	4	2	ウイスキー

4-2 インタビュー結果

インタビュー対象者の回答、および回答者の特徴があらわれている部分をそれぞれまとめていく。「」内は実際のコメントである。

4-2-1 クレジットカードを作った経緯、そのときの心境

はじめに、初めてのクレジットカードを作った経緯と、そのときの心境を質問した。クレジットカードを複数枚持っている被験者には、なぜ次のクレジットカードを作ったのかを追加で質問した。

【Aさん】

Aさんは、大学2年生の冬、友達の誕生日プレゼントを購入するために、化粧品売り場に行ったところ、「今日、カードを作って頂ければ、2000ポイント贈呈します。今回のお買い物からご利用いただけます。」とクレジットカードの勧誘をされたようである。しかしAさんは、この勧誘をポイントカードの勧誘だと勘違いしていたという。カードブースに案内され、申込手続きが始まったタイミングで勘違いしていたことに気付いたが、断ることもできず、その場の流れそのままにクレジットカードを発行したという。

Aさんは、そのときの心境を「そのときはクレジットカードとかよくわからなかったけど、2,000ポイントその場で使えるし、いい機会にだし作るかって思ってた。実際、作ってみてよかったよ。」と笑いながら話していた。Aさんは、合計3枚のクレジットカードを所持しており、2枚目3枚目のクレジットカードは1枚目のクレジットカードに不満があるわけではなかったが、新規入会のポイントプレゼントキャンペーンに惹かれ、発行したとっていた。

【Bさん】

Bさんは大学入学時、自分名義の銀行口座を開設するために銀行窓口に行ったところ、クレジットカードの勧誘を受け、発行に至ったという。クレジットカードを作る予定や意思はそれまで無かったが、「今ならキャッシュカードにプラスでクレジットカード機能を付けられる」と担当の方に言われ、ついでに作ったという。

そのときの心境は、これからカードで買い物ができるなんて大人っぽいなと思ったという。2枚目のクレジットカードはAさんと同じく、新規会員へポイントプレゼントのキャンペーンが魅力的だと思い、発行したという。

【Cさん】

Cさんは大学1年生のとき、楽器販売店で趣味のギター（4万円）を購入し、分割払いの契約をしていた際、クレジットカードの勧誘をされたという。

そのときの心境を、「クレジットカード作ろうなんて思ったことなかったけど、話の流れで...。持ってなったし、せっかくだから作ってみようと思った。」と話していた。それまでクレジットカードを作ろうと思ったこともなかったが、勧誘されたため作ってみたという。2枚目のカードは、1枚目のカードで失敗があったため、ネットで大学生おすすめのクレジットカードを調べて、作ったという。

【Yさん】

Yさんは、大学2年生のとき、AさんやBさんと同じく新規入会ポイント贈呈のキャンペーンに惹かれ、作ったという。また、そのクレジットカードは未成年でも親の同意が要

らず、受け取りも本人である必要がなかったので、発行までのハードルが低かったことも理由のひとつと答えていた。

そのときの心境は、クレジットカードに憧れがあったため、嬉しい気持ちだったという。

【Zさん】

Zさんは大学2年生のとき、普段から利用していた家電量販店で買い物をしていたところ、クレジットカードの勧誘をされ、作ったという。Zさんはもともと、20歳になったらクレジットカードを作ろうと思っていたそうである。その理由は、普段あまり現金をお持ち歩かないため、あれば高額の買い物の際、便利だと思っていたからだそう。

そのときの心境と行動が、他の大学生とは回答が異なっており印象的だった。

「やっとクレジットカードを持てたっていう嬉しい気持ちもあったけど、使いすぎるのが怖かったから最初の契約で、クレジットカードの利用の上限額があるでしょ？あれを最低ラインに設定して、使いすぎるリスクを減らそうって思った。」と話していた。またこの意識の背景には、昔の経験があったそうで、「大学入りたての頃に、ゲームセンターに通っていて、1時間で5,000円とか使うような日もあった。その経験から、自分は負けたくないと思ってしまうと止まらない性格だから、ギャンブルとかは絶対やらないって決めだし、最低限の限度を守るようにしてる。」と話していた。

クレジットカードに対する抵抗の低さ

クレジットカードの発行した際の、心境を語ってもらったが、Zさん以外クレジットカードのリスクについて考慮したというコメントはなかった。そして、タイプI（A、B、C）の大学生には、話の流れで「ついでに」作ってしまおうという安易な姿勢が見られた。また、Yさんが話していたように、未成年でも親の同意なしで作れるなどクレジットカードを発行するまでの手続きが手軽になっており、このこともクレジットカードを作るきっかけとなり得るようだ。さらに、2枚目のクレジットカードからは、その必要性というより、新規入会ポイントキャンペーンに魅力を感じ、新たに発行する大学生が多かった。ポイントキャンペーンもクレジットカード発行のきっかけになるようだが、同時に「ポイントが欲しいから作ろう」という短絡的な姿勢もみてとれる。先行研究でもみたとおり、大学生のクレジットカードに対する意識の低さ、クレジットカード審査の緩さから大学生でも簡単にクレジットカードを手にすることができる環境がわかった質問であった。

4-2-2 現在のクレジットカードの利用状況、過去との比較

現在、クレジットカードをどのように利用しているのか、クレジットカードの利用で意識していることはあるか、月平均の利用額などを質問した。また、それは過去と比べて変

化しているのかを聞いた。

【A さん】

主に、ネットショッピングで洋服を購入するときに使うという。友達と行く旅行代金を一括で払うような使い方もしているという。また、「1,000 円、2,000 円の買い物だったら、来月の負担にあまりならないから気軽にクレジット払いを選んでしまう。」と話していた。

クレジットカードを作ってから何ヶ月間は、クレジット払いを多用していたという。しかし、徐々に支払いに苦しめられた経験から、今では月 3 万円を目安にしているという。3 万円を超えそうになると買いたい洋服があっても、踏みとどまるようになったという。

【B さん】

ネットショッピングや、大きな買い物（5,000 円以上）で利用しているという。その理由は、現金をあまり持ち歩いていないためだそう。

クレジットカードを持ち始めてからはネットショッピングでの利用が中心だったが、1 年ほど経ってから街での買い物でも使うようになったという。毎月の支払額については、街でも使うようになったため、増えている気がすると話していた。

【C さん】

ネットショッピングや手持ちのお金がないときに使っているという。お金に余裕があれば、ポイントがお得なのでクレジットカード払いを選ぶときもあるという。クレジットカードは高額な買い物のときより 5,000 円以下の買い物のときに使うことが多いという。また、C さんは現在、17 万円のギターを 48 ヶ月分割払いの最中であり、「ギターをお店で見つけたときは物凄くテンションが上がっていて、毎月 7,000 円なら大丈夫だろうと思っていたが、生活は確実に厳しくなりました。ギター買ったことに後悔はないですが。」と話していた。

クレジットカードの利用状況は今と昔であまり変わらないという。

【Y さん】

ネットショッピングをあまりしないため、街の買い物で使うことが多いという。特に「この服いいなって思ったときはクレジットにすることが多いかな」と話しており、衝動買いの際にクレジットカードを利用することが多いようだ。Y さんはクレジットカードの利用に関して自分でルールを決めており、アルバイトのシフトが決まり次第、来月の給料を計算し、今月のクレジットカード利用額の上限を決めているという。

Y さんは、最初はクレジットカードを使わなかったという。その理由は 2 年生の夏頃に

クレジットカードを始めて作ったが預金が十分になかったからと話していた。十分な預金が貯まった3年生の春からは、今のように使い始めたという。

【Zさん】

今は、奮発して高額の買い物をするときだけ、クレジットカードを使っているという。その理由として、高い金額のときはポイントが多く貯まるからお得ということと、クレジットカードを何回も使うといくら使ったかわからなくなるからと答えていた。また、クレジットカードを使うときは、毎回自分の預金残高を確認し、それを超えないように使うようにしているという。

消費の計画性の違い

タイプⅠに対して、タイプⅡの大学生はクレジットカードに利用に対して厳密なルールを決め、守っていた。特にYさんは顕著で、来月の収入を先に計算してからクレジットカードを利用するようにしていた。一方、タイプⅠの大学生はAさん以外特にルールを決めていない。タイプⅠの傾向は、先行研究でみたような自己コントロールの低さゆえの計画性の無さなどの多重債務者の特徴と一致する。

時間選好率の高さ

Aさん、Cさんでみられた「1,000円、2,000円の買い物だったら、来月の負担にあまりならないから気軽にクレジット払いを選んでしまう。」「高額の買い物のときより5,000円以下の買い物のときに使うことが多い。」という回答は、金額が小さくなるほど時間選好率が高くなる（未来ではなく今消費したいと思う）という先行研究に一致した。また、Cさんのように高額な買い物（ギター：17万円）のために、分割払いで消費を先延ばしにする行為も、時間選好率の高さを表しているといえるだろう。しかし、大学生であるCさんが17万円を一括で支払うことは困難なことであり、むしろ分割払いであるからこそその消費が可能になっているとも考えられるだろう。

4-2-3 お金遣いや消費意識、資産管理について

自身の金銭感覚や、お金遣いをどう認識しているのか、なぜそう思うのかを質問した。また、買い物の際に意識していることや資産管理の方法などを聞いた。

【Aさん】

Aさんは、自身のお金遣いに関して「荒いですね」と即答した。その理由は、現金が財布にあったらすぐに使ってしまうから、貯金が全然できないからと答えていた。現金があったらすぐ使ってしまうという話では、このようなエピソードを話していた。「友達といく旅行の代金を、現金で回収したんだけど、そのまま口座に入れればよかったのに、財布にそ

のままにして、気づいたらなくなっていた。」また、貯金ができないという話では、「貯金はできればしたいと思ってるけど、大学生だし、お金は遊びに使いたい。」と話していた。

【Bさん】

Bさんは自分のお金遣いは「荒くはないと思う。」と答えていた。Bさんは、毎月の支出額を「財布に10,000円入れて、無くなったら入れる。」という方法で、把握するようになっているという。アプリの家計簿を1回試したが続かなかったため、この方法にしたそうである。また、趣味である海外旅行のために毎月10,000円を自分で積み立てるようになっているという。そのためには、「節約もするし、欲しい物があったらネットで調べたり、衝動買いしそうなときも1回持ち帰って考え直すようにして、無駄な出費を抑えるようにしている。」と話していた。

【Cさん】

Cさんは、自分のお金遣いを「荒いですね。」と話していた。その理由として、貯金をしたいと思っているが、できていないこと、貯金のために具体的な行動までできないからと話していた。さらにCさんは、貯金ができない理由として、「私の趣味がお金かかるんですよ…。バンドしてるとギター買ったり、スタジオ代とかもお金かかるし。あと、漫画とかも買っちゃうんですよ。趣味が多いんですよ。」と付け加えていた。普段からお金が足りないと感じており、節約のために飲み物やお昼ごはんを買わなくてよいように、水筒やお弁当を持参したり、アルバイト先までの電車を2駅分徒歩にしたりしているという。

【Yさん】

Yさんは、自分のお金遣いを「荒い」と話していた。その理由は、衝動買いをよくしてしまうからだと話していた。資産管理については、上述したように収入を見越した上で、支出の上限を決めることで管理しているという。また、銀行口座の預金額に対してもある目安より下回ることが絶対ないように、管理しているという。しかし、節約はするつもりは一切無く、「社会人のときのためにお金を貯めようとも思わないし、大学生なんだから友達と遊んだり、自分の好きなことでお金を使い切りたい。」と話していた。

【Zさん】

Zさんは、自分のことを「ケチだと思う。」と話していた。その理由はZさんの行動によく表われていた。Zさんは大学生になり、一人暮らしを始めたときから、節約しなければならないと強く思っていたそうだ。「基本的に飲み物とかは、500mlじゃなくて、1Lのものを買うし、スーパーが空いている時間だったらコンビニは一切使わない。」と話していた。この行動はお金の余裕のありなしにかかわらず、すでに習慣化しているものだという。一方で、お金を使うべきときには使いたいと考えているようで、旅行に行った際や好きなウ

イスキーなどに対しては、思いっきりお金を使っているという。衝動買いはあまりしないが、買いたいと思ったときには相場を調べるなどして、買うべきかどうか考えてみると話していた。

堅実さ

A さんを除く全員が何らかの形で貯金や節約を実践していた。節約や貯金は、タイプⅡの大学生が意識高く実践しており、内容も具体的で効果のあるものと思われた。タイプⅠの B さんは自分の趣味のために、毎月 1 万円積み立てるなど高い計画性がみられた。しかし同じタイプⅠの A さんはエピソードにもあるように、すぐお金を使ってしまいうらしく自己コントロールの低さや消費意識の高さがみられた。このようにこの質問では、タイプ別の傾向は強くみられなかった。

好きなこと、今を楽しみたい

B、C、Z さんらでみられた、海外旅行のための積立貯金や、ウイスキーには積極的にお金を使う姿勢も、現代大学生の消費価値観と一致しているといえる。また、「大学生なんだから、今は友達とかと遊ぶことにお金を使いたい」といような A、Y さんのコメントからは現在を重視する現状維持バイアスの高さも観察できるが、自由に使えるお金が社交消費に向かう現代の大学生の傾向もみることができる。

4-2-4 失敗経験について

タイプⅠの大学生に対し、クレジットカードの利用で経験した失敗談について質問した。また、Z さんに対してはクレジットカードでの失敗経験はないが、過去に消費者金融を利用したという話があったため、「お金を借りる」という点で興味深い事例だったため、追加で質問を行った。

【A さん】

A さんの失敗経験は、銀行口座に十分な残高が無く、クレジットカード利用額の支払いができなくなったことだ。A さんはこの経験を 2 回していた。1 回目は、一人暮らしを始めて間もないころ、家賃や生活費でいつの間にか口座残高が少なくなり、支払いができなくなったそうである。またその月は、クレジットカードの使い過ぎも原因のひとつだったと A さんは分析していた。A さんはこの失敗をするまで、クレジットカードの利用額確認サービスの存在を知らなかったという。現在はアプリで確認するようになったそうだが、クレジットカードの契約の際にも教えてもらった記憶もなく、その後も自分では調べようとはしなかったそう。

2 つ目の失敗は、友達との旅行代金をまとめて払ったときのことだ。上述のように、友達から受け取った現金を財布にしまったままにしまい、買い物に使ってしまったこと

で残高不足に陥ったという。

【Bさん】

Bさんにも、失敗経験が2つあった。1つ目は、クレジットカード利用額の確認を怠ったことによる支払延滞であった。毎月家に届くクレジットカードの利用明細書を、銀行からの何かの案内だと思い込み、毎月開封せずに捨てていたようだ。確認していなかったため、いつもより多かったクレジットカード利用額に気付かず、口座残高不足の状態になってしまったそうだ。この件に関してクレジットカード会社からの電話で怒られたらしく、「なんでそんなに怒るんだろうって思った。」と話していた。2つ目は、海外旅行の際に、使いすぎてクレジットカード利用額の上限に達し、クレジットカードを止められたことである。飛行機代や現地での出費が積み重なってしまったことも原因だが、Bさんは利用額に上限があることを忘れていたようで、現地での支払いはほとんどクレジットカード支払いで済ませていたという。

【Cさん】

Cさんの失敗談は、間違えて望まないリボ払いをすることになってしまったことだ。大学1年生のとき、クレジットカードの利用後にクレジットカード会社から電話がかかってきて、「今回のお支払をリボ払いに変更しませんか。」と尋ねられたという。Cさんは当時、リボ払いやクレジットカードのことをよく理解していなかったようで、適当な受け答えで、「はい。」と返事をしてしまったそうだ。そしてその支払いが2、3か月のリボ払いに変更になってしまい、支払いを終えた後、怖くなってそのカードは退会したという。

【Zさん】

Zさんは大学1年生の秋、サークルの合宿費を捻出するために消費者金融で、お金を借りたという。Zさんは、合宿のためのお金が足りないことは前々から認識しており、「親にお願いしてみたけど断られたし、先輩や同級生に貸してもらうのも申し訳ないと思ったから、自分の責任の中でまかなえる消費者金融しかないと思って、借りにいった。」と話していた。Zさんは、初回は30日間金利無料だということを知り、来月入るアルバイトの給料で確実に返済できると考えた上で、なくなく消費者金融を利用したと話していた。

金銭管理意識の低さ

A、Cさんの失敗経験のようなクレジットカード利用額の確認不足や銀行口座残高の確認不足による支払延滞からは、今どのくらいのお金を持っていて、これからどのような収支が発生するのか把握する意識が低いことがわかる。

クレジットカードへの意識、理解の低さ

大学生のクレジットカードへの意識、理解の低さが支払延滞などの失敗を引き起こしていることがよくわかる。Aさんが利用額確認サービスを知らなかった話や、Cさんのリボ払いになってしまった話からは、クレジットカード利用するにあたって最低限のことを知らずに利用していた実態がわかる。Bさんの「なんでそんなに怒るんだろうって思った。」というコメントは、その当時Bさん自身がクレジットカード会社からの借金を払えない状況にあるということを理解していなかったゆえの言葉だろう。

タイプⅠの大学生に比べ、タイプⅡのZさんは対照的だった。Zさんは確かに消費者金融を利用し、お金を借りたのだが、その前にはお金を借りる様々な可能性を考え、最終的に確実な返済の見込みを立てた上での決断であった。タイプⅠの大学生とはお金を借りるという行為に対しての姿勢の違いがよくわかる。もちろん、これまでみてきたようなZさんのお金に対する堅実で計画性のある意識があったことも強く影響しているだろう。また、消費者金融という身近でないものを利用するゆえの姿勢だったのかもしれない。もしそうであるならば、お金を借りることが簡単になればなるほど、利用者もお金を借りる意識や理解は低くなる。つまりクレジットカードの利用が簡単になればなるほど、タイプⅠの大学生がみせたような姿勢を生み、支払延滞などの問題を引き起こす可能性があるということだ。

第6章 考察・まとめ

本論ではクレジットカード、大学生の消費価値観、多重債務者の特徴の先行研究を参考に、大学生のクレジットカードの利用実態をインタビュー調査を通して分析してきた。インタビュー調査は、支払延滞などの失敗経験のありなしで分類し、その傾向がそれぞれ一致するのか。また特に失敗経験ありのタイプでは、利用者の心理がクレジットカードの使い方にどのように影響するのかを多重債務者の心理的特徴と比較しながら分析した。分析のなかで、タイプⅠの大学生はタイプⅡの大学生に比べ、自己コントロールの低さ、消費意識の高さ、金銭管理意識の低さが表れており、この傾向は多重債務者の心理的特徴と一致する部分であった。このことから、クレジットカード利用者の心理が過剰な消費や借金に対する意識の低さを生むことがわかった。

しかし、クレジットカードで失敗経験があるからといって多重債務者と一致する特徴が多くあるとはいえなかった。タイプⅠの大学生でも、毎月積み立てをしていたり、節約するなど堅実な姿勢もみられ、クレジットカードの利用で失敗経験をした大学生全員がその消費行動やお金に対する考え方が原因で失敗をしたとは考えられなかった。結果的に、その大きな原因と考えられたのは、「大学生のクレジットカードに対する意識、理解の低さ」である。これは、安藤（2002）が分析したように、大学生がクレジットカードへの理解がないまま、クレジットカードのメリットばかりに目をつけ、安易に作ってしまう姿勢に原因があるだろう。クレジットカード会社側にもその原因はあり、クレジットカード審査の

簡略化やポイントキャンペーンなどのプロモーション、大学生を標的にした勧誘がこのような問題を引き起こすきっかけを作っている。消費者金融とクレジットカードにおける手軽さの違いからも考察したように、利用者のお金を借りるという知識や理解の低さを生む環境を業界全体が作り出しているのかもしれない。一方で、クレジットカードやお金に関する教育の重要性を社会が認識していないことも原因であろう。現状では、利用者が能動的に学ぼうとしなければ、最低限の理解が得られない環境である。

本論文ではインタビュー調査により、大学生のクレジットカードの利用実態を明らかにし、大学生がクレジットカードを利用する危険性や、その原因について触れることができた。これからもクレジットカードはさらに私たちの生活に根付き、当たり前のものになるだろう。私たちはクレジットカードを利用するにあたり、最低限の知識や理解、計画性などを改めて認識し、正しい利用を心がける意識を大切にしていかなければならない。

参考文献

- ・安藤明人（2002）「大学生とクレジットカードをめぐる問題」『武庫川女子大学紀要、人文・社会科学編』、第 50 号、pp.55-64。
- ・嶋田美奈（2010）「現状維持バイアスと心理的特徴の関係 ―多重債務者の消費行動から―」『パーソナルファイナンス学会年報』、第 10 号、pp.49-59。
- ・原田曜平（2012）「若者消費論」『Joyo ARC』、第 517 号、pp6-15。
- ・晝間文彦（2001）「消費者の主観的割引率について」『消費者金融サービス研究学会年報』、第 2 号、pp.35-49。

参考資料

- ・「家計の消費動向とクレジットカード利用」
<www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/bunseki/pdf/h17/h4a0509j3.pdf>（2017/12/30 アクセス）。
- ・「消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識」
<http://www.caa.go.jp/adjustments/pdf/27hakusho_3.pdf>（2017/12/30 アクセス）。
- ・「ひとはなぜ後悔するのか ―時間割引率の行動経済学―」
<<http://www.iser.osaka-u.ac.jp/rcbe/event/ikeda.pdf>>（2017/12/30 アクセス）。
- ・「クレジットカードに関する総合調査 2016年度版 調査結果レポート 株式会社JCB」
<www.global.jcb/ja/press/news_file/file/20170217.pdf>（2017/01/09 アクセス）。
- ・「クレジットカードに関する総合調査 2005年度版 調査結果レポート 株式会社JCB」
<<http://www.jcbcorporate.com/news/pdf/dr-469.pdf>>（2017/12/30 アクセス）。
- ・「特定サービス産業動態統計調査（クレジットカード業）」

- <<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/tokusabido/result-2.html>> (2017/12/31 アクセス)。
・「クレジットに関する消費者向け実態調査結果の公表について」
- <https://www.j-credit.or.jp/information/download/investigation_result11_171107.pdf>
(2017/12/31 アクセス)。
・「マイナビ 学生の窓口」
- <<https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/50397>> (2017/12/31 アクセス)。
・「電通総研 好きなものまるわかり調査」
<www.dentsu.co.jp/news/release/pdf/cms/2013021-0305.pdf> (2018/01/06 アクセス)。
- ・「日本クレジットカード協会」
<<https://www.j-credit.or.jp/security/ic.html>> (2018/01/09 アクセス)。
- ・「大学生の実態調査 2016 ー大学生の生活実態編ー」
<https://www.recruitcareer.co.jp/news/old/2016/160210_01/> (2018/01/17 アクセス)。
- ・「20 代の「買えるのに買わない」理由を探る ー消費を阻む「将来の見通しの不透明性」と「情報選択の困難性」 ー若者の価値観と消費行動に関する調査より」
<group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2017/news1704_01.pdf> (2018/01/17 アクセス)。